

建築鉄骨構造技術支援協会「鉄骨技術フォーラム2016」

—鉄骨造建築物の構造設計・部材製作等における疑問に答える—

開催の趣旨

今回のフォーラムでは、昨年好評だったフォーラムの第2弾として、角形鋼管を用いた中小規模鉄骨造建築物を主な対象として、主に構造設計、鉄骨部材製作等における疑問点を会員各位からのご質問に答える形で当協会の関係者が回答し、それらについて更に会場での討議を進めることを考えております。

以下にそのような疑問点の例を示しますが、今後とも会員各位からの質問を募集し、更に充実した企画としたいと考えております。質問提出の期限は、8月31日とし、下記連絡先にe-mailでお寄せください（場合によっては図を添付してください）。

フォーラムの詳細は下記の通りです。鉄骨構造物に関係のある多くの方々の参加を希望しております。

(一社) 建築鉄骨構造技術支援協会 理事長 田中淳夫

日 時 平成28年10月7日(金) 13:30~17:00(受付け開始13:00から)

場 所 東京電機大学千住校舎1号館1204教室(東京都足立区千住旭町5番※北千住駅東口から徒歩1分)

参加費 会員5,000円、非会員7,000円(全体会員は当協会会員として扱います)

定 員 先着100名

プログラム

1. 理事長挨拶(鉄骨構造に関する最新情報の説明を含む)

2. 鉄骨造建築物の設計・部材製作等における疑問に答える

回答者 青木博文、内田三雄、田中淳夫、護雅典
質問の例を以下に示します。

- 1) 板厚方向力を受ける柱梁接合部の鋼種選定について
- 2) 柱および梁に取付けるスチフナの鋼種について
- 3) 梁端溶接部において完全溶込溶接と隅肉溶接を使用する際の法的ならびに力学的な条件について
- 4) 隅肉溶接の耐力割り増しについて
- 5) 交角が50度以下となる部材継目の形状や溶接方法について
- 6) 高力ボルト接合で拡大孔やスロットホールが使えないのはなぜ
- 7) 脊縁、母屋等のボルト孔径の力学的な根拠、法的な取り扱いについて
- 8) ダイアフラムと梁フランジが立面的に斜めに取付く場合の収まりについて

- 9) 一部の部材が鏽止塗装から溶融亜鉛めっきに変更になった場合の高力ボルト接合部の設計変更について
- 10) 付属金物の取付けでその形状・寸法によりショートビードとなる箇所が生じた場合、構造上の問題とならないのか
- 11) 梁フランジ小口におけるデッキプレート受けの正しい溶接方法は
- 12) JASS 6では、裏当て金の組立て溶接の端部が梁端部から5mmとなっている。以前は10mmであったのがこのように変更されたのはなぜ
- 13) エンドタブ切断の要否および正しい切断方法について
- 14) 露出柱脚でABRやABMの上部にナットを追加してレベル調整用としてもよいのか。また、アンカーボルトの定着板を溶接で固定してもよいのか。

鉄骨技術フォーラム2016 参加申込書 FAX 045-441-1196 ※お一人ずつお申し込み下さい。平成28年 月 日

ふりがな	ふりがな	会員 <input type="checkbox"/>
氏名	会社名	非会員 <input type="checkbox"/>
会社住所	電話	
	FAX	

本申込書をFAXのうえ、下記口座に参加費をお振り込みください。

みずほ銀行 横浜駅前支店 普通預金 口座番号 2427243

口座名：一般社団法人 建築鉄骨構造技術支援協会 シヤ)ケンチクテツコソコウゾウギジュツシエンキヨウカイ

連絡先 建築鉄骨構造技術支援協会事務局

東京都中央区日本橋茅場町2-2-2三恵ビル5F Tel 03-5843-6489 e-mail : info@sasst.jp